平成28年度決算について

<ポイント（一般会計）>

決算総額は、300億5,156万円（歳入）、292億9,000万円（歳出）と過去最大規模であった平成27年度に比べて歳入は10億3,000万円、歳出は12億8,230万円となりました。

平成25・26・27年度決算において臨時財政対策債を借り入れませんでした。また、平成28年度は普通交付税が不交付団体となり、臨時財政対策債を借り入れできなくなりました。

市税等収納率は、納税者のご理解・ご協力及び市担当職員のたゆまぬ努力により、平成27年度を上回る結果となりました。

経常収支比率は、市税の増があったものの、平成27年度の新規起債にかかる公債費の増等により前年度比で2.4ポイント悪化し92.7%となり、引き続き歳出抑制に努める必要があります。

一般会計	平成28年度	平成27年度	主な増減理由等
歳入総額(千円)	30,051,564	31,081,661	地方債 1,476百万円
歳出総額(千円)	29,290,000	30,572,303	複合施設等用地買収 1,666百万円 国立駅南自転車駐車場用地買収 673百万円
翌年度繰越財源(千円)	191,881	53,707	(明許繰越分)
実質収支(千円)	569,683	455,651	(翌年度繰越額)
実質単年度収支(千円)	345,918	317,660	
市税収納率(%)	現年度分99.7 滞納繰越分63.6 合計99.4	現年度分99.6 滞納繰越分56.0 合計99.3	<国保税> H28:現年96.5 滞納51.8 合計93.6 H27:現年96.3 滞納50.8 合計92.4

一般会計	平成28年度	平成27年度	主な増減理由等
基金年度末残高(千円) カッコ内は 定額運用基金含む場合	5,376,453 (5,937,662)	5,436,904 (5,998,110)	谷保の原風景保全基金積立 +103百万円 財政調整基金積立 +232百万円 企業誘致促進基金取り崩し 133百万円 国立駅周辺整備基金取り崩し 478百万円
歳入のうち臨時財政対策債 (千円)	0	0	平成25・26・27年度に引き続き借入は行いませんでした
地方債年度末残高(千円)	14,705,115	15,107,983	平成28年度借入1,030百万円 元金償還額1,433百万円
特定目的基金を含めた実質単 年度収支(千円)	53,580	867,781	財政調整基金の取り崩しを行わなかったが、国立駅周辺 整備基金の取り崩しを行ったことにより大幅な減となりま した。
経常収支比率(%)	92.7	90.3	<分母:経常一般財源> 66千万円(地方消費税交付金 の減、市税の増) <分子:経常経費充当一般財源等> +7.8億円(公債費の 増)
義務的経費比率(%)	53.2	53.5	分母である標準財政規模が増えたこと等により減となりま した。
人口一人当たり基金現在高 (万円)	7.1	7.3	財政調整基金の取り崩しを行わなかったが、国立駅周辺 整備基金の取り崩しを行ったことにより大幅な減となりま した。
人口一人当たり地方債残高 (万円)	19.5	20.2	平成28年度借入1,030百万円 元金償還額1,433百万円 により減となりました。
債務償還可能年数(年)	5.4	5.4	分子である地方債残高は増えましたが、分母も増となった ことにより年数は横ばいとなりました。

特別会計	平成28年度(千円)	平成27年度(千円)	主な増減理由等
国民健康保険歳入総額	8,555,561	8,691,170	歳入は税率改定による保険税の増。それに伴い、繰入金の減。歳出は給付費は微減だが、各種納付金の減。
国民健康保険歳出総額	8,479,295	8,637,775	
下水道事業歳入総額	2,958,360	2,817,391	下水道総務費及び流域下水道費の増。
下水道事業歳出総額	2,908,892	2,782,752	
下水道事業特別会計 地方債年度末残高	9,214,561	10,001,052	元利償還が進んだことによる
介護保険歳入総額	5,342,614	5,234,520	地域支援事業費の増
介護保険歳出総額	5,218,523	5,088,018	
後期高齢者医療歳入総額	1,706,586	1,620,819	歳入は、料率改定による増。 歳出は、広域連合納付金の増。
後期高齢者医療歳出総額	1,643,690	1,549,989	